

## 近年のマガレイ稚魚個体数密度と漁獲状況

福島県水産資源研究所 資源増殖部

### 1 部門名

水産業—資源管理—底びき網

### 2 担当者名

白土遼輝・守岡良晃・山田学

### 3 要旨

試験操業が拡大している一方、沿岸性主要カレイ類であるマガレイの水揚量は近年減少している。調査船によるトロール調査での 2003～2020 年までの当歳魚の個体数密度（個体/ km<sup>2</sup>）と漁期年ごとの沖合底びき網漁業の C P U E（1 時間曳網あたりの漁獲量）を算出したところ、当歳魚の個体数密度、沖合底びき網漁業の C P U E 共に低下が続いていることが明らかになった。高水準の加入がなければ、今後も資源減少が続くと懸念されることから、現在の資源を持続的に利用するよう漁業者に提示する必要が示唆された。

- (1) 試験操業における漁業種別漁獲量の推移から、漁獲量は 2017 年を境に減少している。
- (2) 調査船によるトロール調査の個体数密度について 2003～2020 年のデータを整理した結果、2015 年以降は低水準で推移した（図 1）。
- (3) 沖合底びき網の C P U E の経年変化を 2003～2019 年の有漁データを用いて算出した結果、2016 年をピークに低下が続いている（図 2）。

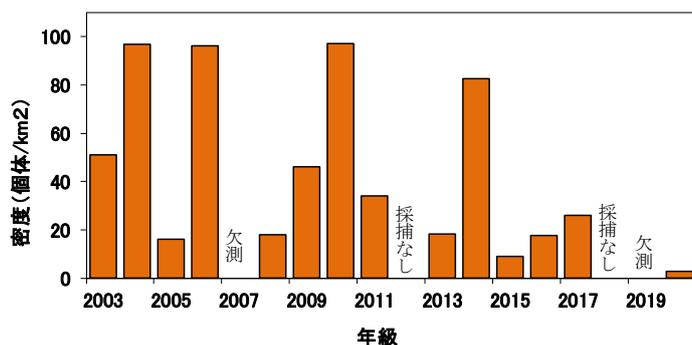


図 1 マガレイ当歳魚個体数密度

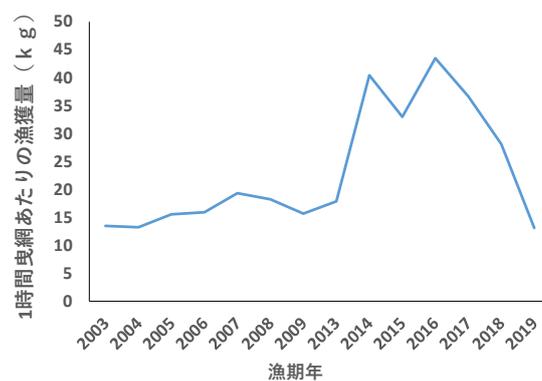


図 2 沖合底びき網の C P U E

### 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 15～令和元年度
- (2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

### 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 29 年度 福島県水産試験場事業概要報告書